

SiteGuard Server Edition Ver5.00 アップグレードガイドライン (Apache 版)

はじめに

本書は、弊社製品「SiteGuard Server Edition」をご利用中のお客様が Ver5.00 へのアップグレード作業を円滑に行えるようにすることを目的としたガイドラインとなっております。Ver5.00 へのアップグレード手順、変更点等がまとめられていますので、ご一読の上、アップグレード作業を実施してください。

尚、本書では Unix 系コマンドの基本的な使い方などの説明は割愛させていただいております。本書に記載されている手順や表記に関してご不明な点等がございましたら、サポートデスク宛にお問い合わせください。

本書の構成

■SiteGuard Server Edition Ver5.00 の主な変更点	2
■アップグレード前の確認事項 (共通)	5
■SiteGuard Server Edition Ver5.00 アップグレード手順 (Linux)	6
■SiteGuard Server Edition Ver5.00 アップグレード手順 (FreeBSD)	8

■SiteGuard Server Edition Ver5.00 の主な変更点

1. 検査／防御機能の改善

1-1) Cookie の保護

Cookie の保護で暗号化、secure 属性の追加ができるようになりました。暗号化により、Cookie 改ざんによる他人へのなりすまし等を防ぐことができるほか、secure 属性追加により、Cookie の送信を HTTPS 通信時のみにすることができます。

Cookieの保護

暗号化 無効

暗号化除外Cookie(完全一致)

例) cookie_name

※複数指定をする際は、指定ごとに改行入力してください。
※最大で1999バイトまで設定できます。

Secure属性追加 無効

Secure属性追加Cookie (正規表現)

例) ^cookie_name\$

※複数指定をする際は、指定ごとに改行入力してください。
※最大で1999バイトまで設定できます。

シグネチャ検査 無効

1-2) 応答ヘッダフィールドの追加・削除

任意の応答ヘッダフィールドの追加、および削除ができるようになりました。セキュリティ対策のため、応答ヘッダフィールドを追加できるほか、不要な応答ヘッダフィールドの削除に利用できます。

<p>▶ 応答ヘッダフィールド削除</p> <p>削除フィールド名(完全一致)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 有効</p> <p>X-Powered-By</p> <p>※複数指定をする際は、指定ごとに改行入力してください。 ※最大で1999バイトまで設定できます。</p>
<p>▶ 応答ヘッダフィールド追加</p> <p>追加フィールド</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 有効</p> <p>X-Frame-Options:SAMEORIGIN X-XSS-Protection:1;mode=block X-Content-Type-Options:nosniff Strict-Transport-Security:max-age=31536000</p> <p>※複数指定をする際は、指定ごとに改行入力してください。 ※最大で1999バイトまで設定できます。</p>



Ver5.00 以前のバージョンからアップグレードした場合、本機能はデフォルト無効です。必要に応じて、有効に変更してご利用ください。



ウェブサーバーの動作が優先され、指定した応答ヘッダの追加、削除ができない場合があります。



利用環境やセキュリティ要件（クリックジャッキング対策として、X-Frame-Options: SAMEORIGIN など）にあわせて、ご利用ください。

1-3) BASE64 デコード検査を改良

誤検出の低減を目的とした検査仕様を改良したほか、ウェブ管理画面に有効/無効、除外パラメータを指定する項目を追加しました。BASE64 エンコードされたパラメータを利用する攻撃を防御できます。

<p>▶BASE64デコード検査</p> <p>BASE64デコード除外パラメータ名(完全一致)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 有効 <input type="checkbox"/></p> <div data-bbox="678 631 1353 887" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; min-height: 100px;"><p>例) parameter_name</p></div> <p>※複数指定をする際は、指定ごとに改行入力してください。 ※最大で1999バイトまで設定できます。</p>
---	--



Ver5.00 以前のバージョンからアップグレードした場合、本機能はデフォルト無効です。必要に応じて、有効に変更してご利用ください。



トラステッド・シグネチャ バージョン「2021-06-23_01」以降が適用されている必要があります。

2. その他の変更点

上記以外の変更点につきましては、製品ダウンロードページの変更履歴をご参照ください。

■アップグレード前の確認事項（共通）

アップグレードを行う前に、以下の項目について確認してください。

1. Java インストールパス

JDK/JRE のバージョンアップ等により、JDK/JRE のインストールディレクトリに変更がある場合、予めセットアップ (setup.sh) を実行して、正しいインストールパスに変更のうえ、本書の手順に従ってアップグレードを実施してください。

2. 負荷分散構成でのご利用について

Cookie の暗号化（デフォルト無効）を利用する場合、インストール時に生成される暗号鍵を合わせる必要があります。本製品をアップグレード後に暗号鍵を設定してください。



Caution

負荷分散構成などで複数台のウェブサーバーを利用する場合は、どのウェブサーバーにアクセスしても同じ暗号鍵で処理するように、各 SiteGuard の暗号鍵を明示的に合わせて利用します。2 台のウェブサーバーで SiteGuard を利用する場合、1 台目のインストールと 2 台目のインストールでは生成される暗号鍵が別々の値になりますので、いずれかの暗号鍵に合わせてご利用ください。

暗号鍵を合わせる場合は、設定ファイル (conf/siteguardlite.ini) の `cookie_key=` の値を各 SiteGuard で同一の値に設定します。設定後、[モジュール設定] の [適用] ボタン、または `make reconfig` コマンドで設定を適用してください。

■ SiteGuard Server Edition Ver5.00 アップグレード手順 (Linux)

インストール時と同様のコマンドで、パッケージをインストールして製品をアップグレードします。



Ver4.00 以降からのアップグレードをサポートしています。
「SiteGuard Server Edition」をアップグレードした場合、既存の設定内容（検査設定、シグネチャ更新設定、検出メッセージの内容など）は引き継がれます。



インストールパッケージは、32bit/64bit 用があります。
本書では、64bitOS の場合の例を説明しています。
32bitOS をご利用の場合は、32bit 版のインストールパッケージを使用してください。

以降の手順は、すべて root 権限で実施してください。

1-1) インストールコマンドを実行します。

```
# rpm -Uvh siteguard-server-edition-5.00-0.apache.x86_64.rpm
```

※tar.gz パッケージの場合は、以下のように実行します。

```
# tar -zxvf siteguard-server-edition-5.00-0.apache.x86_64.tar.gz
```

```
# cd siteguard-server-edition-5.00-0.apache.x86_64
```

```
# make install
```



インストールコマンド実行時に、Apache のサービス再起動 (stop, start) が行われます。
また、SELinux が有効の場合は、SELinux の動作に必要な設定の更新を行います。
この処理には、数分程度かかる場合があります。setenforce 0, setenforce 1 が実行されるため、一時的に SELinux が無効になります。

1-2) アップデート完了のメッセージが表示されることを確認してください。

`finished SiteGuard Server Edition setup`

`Please access following URL for starting service.`

`https://hostname:9443/`

`SiteGuard Server Edition setup done...`

`Update succeeded!`



Note

「警告: ファイル /var/tmp/siteguardlite-X.XX-X/logs: 削除に失敗しました: そのようなファイルやディレクトリはありません」等のメッセージが出力されることがありますが、動作に影響はありません。



Note

SELinux が有効の場合、「ValueError: /opt/jp-secure/siteguardlite/XXX のファイルコンテキストはすでに定義されています」等のメッセージが出力されることがありますが、動作に影響はありません。

以上で、SiteGuard Server Edition Ver5.00 へのアップグレード終了です。

■SiteGuard Server Edition Ver5.00 アップグレード手順 (FreeBSD)

インストール時と同様のコマンドで、パッケージをインストールして製品をアップグレードします。



Ver4.00 以降からのアップグレードをサポートしています。
「SiteGuard Server Edition」をアップグレードした場合、既存の設定内容（検査設定、シグネチャ更新設定、検出メッセージの内容など）は引き継がれます。



インストールパッケージは、32bit/64bit 用があります。
本書では、64bitOS の場合の例を説明しています。
ご利用の環境に合ったインストールパッケージを使用してください。

■FreeBSD 用 tar.gz パッケージ

siteguard-server-edition-XXX-X.apache.bsd32.tar.gz	32bit 版 (FreeBSD 11)
siteguard-server-edition-XXX-X.apache.bsd64.tar.gz	64bit 版 (FreeBSD 11)
siteguard-server-edition-XXX-X.apache.bsd12_64.tar.gz	64bit 版 (FreeBSD 12)

以降の手順は、すべて root 権限で実施してください。

1-1) インストールコマンドを実行します。

```
# tar -zxvf siteguard-server-edition-5.00-0.apache.bsd64.tar.gz
# cd siteguard-server-edition-5.00-0.apache.bsd64
# make install
```



インストールコマンド実行時に、Apache のサービス再起動が行われます。

1-2) アップデート完了のメッセージが表示されることを確認してください。

```
-----  
finished SiteGuard Server Edition setup
```

```
-----  
Please access following URL for starting service.
```

```
https://hostname:9443/  
-----
```

```
SiteGuard Server Edition setup done...  
-----
```

```
-----  
Update succeeded!  
-----
```

以上で、SiteGuard Server Edition Ver5.00 へのアップグレード終了です。

以上